

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	加藤 京里
	研究分担者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	三沢 萌伽
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	加藤 京里

講演題目
体位変換における看護師の前腕の汚染に関する実験的検証
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】 現行の衛生的手洗い方法では、手首よりも中枢側の前腕は洗浄・消毒しない。しかし患者に密着してケアを行う看護師は、手首よりも中枢側の前腕が患者や療養環境に触れ汚染するリスクが高いと考えられる。本研究は実験的に看護ケア場面をシミュレーションし、看護師の前腕における汚染部位の解明と、効果的な衛生的手洗い方法の検討を行うことを目的として実施した。 【研究方法】 シミュレーション実施前に、研究協力者（看護師役）は、体位変換の技術動画を視聴した後、研究者と一連の手技を実演しながら確認した。体位変換の技術を修得した学生が看護師役となり、蛍光剤を塗布したモデル人形の体位変換を実施した。体位変換後に、看護師の手と前腕への蛍光剤付着部位を確認するために、暗室でブラックライトを照射して看護師役の手と前腕部位の静止画撮影を行った。画像処理ソフト（imageJ）を使用して蛍光剤付着部位を確認し、面積を計測した。 【倫理的配慮】 研究協力者は学生であるため、研究に際して研究者（教員）から脅威を受けることがないように、研究協力者募集はポスター掲示で行い、成績評価に何の影響もないことを説明した。研究協力者には説明文書と口頭で説明を行い同意書に署名を得た。本研究は静岡県立大学研究倫理審査委員会の承認（5-42）を受け実施した。本研究における利益相反は適切にコントロールされた。 【結果】 シミュレーションは、令和6年12月～令和7年3月現在、静岡県立大学小鹿キャンパス実習室で実施した。現在、測定したデータを分析中である。 【今後の展望】 先行研究として我々は、看護ケア場面のうち、日常的に実施されるバイタルサイン測定をシミュレーションし、看護師の利き手の前腕内側が汚染しやすい（加藤ら 2023）ことを明らかにした。継続研究としての本研究の知見は、感染拡大防止のために社会に還元し、また本学看護学部の基礎看護技術教育内容に反映させることを今後の展望としている。